

第 6 章

ESD を学び、伝える

<研修・普及啓発プロジェクト>

研修および普及啓発プロジェクト 2007 年度の活動

2007 年度はこれまでの成果を生かし、よりいっそうの ESD の理解をすすめ、地域での活動を広げ、つないでいくことを目的に、

- テキストブックを活用した ESD 入門講座のプログラムを開発し、実施する（主な対象は自治体職員、大学など）
 - ESD コーディネーターの役割や技能を明らかにし、コーディネーター入門講座の開発に着手する
 - 理事やスタッフを対象に、マネジメント、政策提言力の向上および評価についての研修を行う
- の 3 点を目標として、5 つの事業に取り組む計画を立てた。

2007 年度 活動の概要

(1) ESD 入門研修の開発と実施

入門講座のひな型を開発し、教員・企業・市民むけなど、対象にあわせたアレンジバージョンを実践した。その結果、30 分、1 時間、半日、1 日バージョンの研修シナリオと、プレゼンテーションデータを作成することができた。基本的な流れ、ツールができたことで、ESD 入門のクオリティの向上と、事前準備の効率化が図れた。今後はこのツールを活用できる人を増やすべく、「入門講座のすすめ方入門」などを実施していくとともに、ツールの改善やステップアップ講座の開発などにも取り組んでいく必要がある。

(2) 出前講座・研修・ワークショップの開催

教員むけ研修（文科省・茨城県など 5 件）、市民むけ研修（環境カウンセラー研修、環境教育リーダー研修など 9 件）、行政職員むけ研修（環境省 1 件）、学生むけ講義（宮城教育大、岐阜県立森林文化アカデミー 2 件）などで研修を企画・講師派遣を行った。また、経団連自然保護協議会の協力を得、9 月に「ESD セミナー」を開催、約 60 名の参加者に「ESD は CSR のための人づくり」という視点を広げることができた。

課題は、行政などで準備されている講師謝金が少ないこと。今後講師派遣の基本レートなどを設け、適正な対価を得られるしくみづくりに取り組む必要がある。

また、学生むけ・学生主体の勉強会などにも着手しはじめている。2008 年度はこの勉強会をボランティアネットワークづくりとつなげて発展させていきたい。

(3) ESD コーディネーター養成研修の開発・実施

全国ミーティングの研究会で「ESD コーディネーター養成講座」を実施、ESD コーディネーターの役割・必要な能力を整理した。2008 年度は ESD コーディネーター養成の入門コース、ステップアップコースの開発や認定制度の検討をはじめることが大切である。これは ESD-J が単独で行うのか、他の ESD に関心をもち、活動している市民団体や大学と協働して行うのかを検討する必要がある。

研修および普及啓発プロジェクトチーム・リーダー 世古一穂



(4) 大学むけ研修の開発と実施

2007年度は着手に至らなかったが、大学では文部科学省の「現代GP」などでESDに取り組むケースが増えてきており、その取組み状況の把握、質的向上にむけた働きかけとして、研修の可能性があると思われる。

(5) 理事研修（目標設定と評価）

4月にプロジェクトごとの目標設定と評価のためのシートづくりに取り組んだ。また9月には政策提言、とりわけ法律づくりにむけたアドボカシーのあり方について学び、ESD-Jの政策提言の方向性について話しあった。評価シートについては未完成のままになってしまったが、活用に向け完成度を高める作業が必要である。また2008年度は、組織のキャパシティ・ビルディング（力量形成をはかる）ために、理事やスタッフむけにNPOの組織マネジメント、ファンドレージング、政策提言能力づくり、コーディネート能力アップ、評価等に関する研修が必要だと思う。

今後の活動の方向性

特定非営利活動促進法（NPO法）が成立からまる10年を迎えた。この間、NPO法人は全国で約33,000団体に増え、NPO法人の認知度は大幅に拡大したが、税制優遇制度の不備などから、寄付金ゼロのNPO法人が4割あるなど財政基盤の弱さが指摘されている。この10年で、社会サービスを利用者からの料金で賄う事業型NPOや行政資金に依存する「下請け」NPOが増えているが、NPOが財政的自立を確保するには、経営能力や政策提言能力を向上させるだけでなく、制度を変えていくための政治的活動も必要だと思う。また、公共の領域においてNPOがやるべき仕事と行政がやるべき仕事を分け、税金の再配分を対等にするシステムづくりが必要だ。

NPOが政府や自治体の予算策定に切り込んでいくことも大切だし、市民活動を支える制度づくりや、行政・企業との対等な協働関係を築くための指針の整備も不可欠だ。

明治以来、日本社会は「公（政府）＝お上」「私（個人）」の二元論できた。「私（個人）」以外のパブリックの領域を行政に任せ、「公共」は行政分野がやることと誤解、行政に公共領域を任せてきた。これからは「公」「公共」「私」の三元論でとらえなおし、市民活動を活発に展開することで新しい公共を拓く必要がある。

ESD-Jにおける研修も「持続可能な市民社会形成」に役立つものであり、新たなる公共のとらえ方と担い手を育むとの視点が不可欠である。組織のキャパシティ・ビルディングを図る理事やスタッフむけ研修、会員や外部にむけての研修など、充実していきたい。

なお、これらの研修は助成金を確保して開発する方法ばかりでなく、適切な参加費をとって自主事業として実施できるしくみを構築することが必要である。また、リクエストを待って実施するだけでなく、出前研修をPRすることも必要である。

ESD を広める人のための「ESD 入門講座」

in 清里ミーティング 2007

持続可能な開発のための教育（ESD）が徐々に広がりはじめていると感じます。環境省や文部科学省、教育委員会などの環境教育担当者研修でも「ESD 入門」のリクエストが増えてきました。このようなニーズの増加に対応するため、ESD-J では 2006 年に出版した ESD テキストブック『未来をつくる「人」を育てよう』をベースに、スライドを使った講義と参加型ワークショップを組みあわせた「ESD 入門講座」を開発しました。

そしてこの入門講座を、ESD を伝える立場になる人に体験いただき、そのブラッシュアップや対象者に応じたアレンジについて検討すること、そして「ESD を伝えるむずかしさ」をともに乗り超えるヒントをつかむことを目的として、「ESD を広める人のための「ESD 入門講座」」を開催しました。

場所は ESD-J 会員団体の（社）日本環境教育フォーラムが山梨県・清里で毎年開催している環境教育全国ミーティング、通称「清里ミーティング」。11月 18 日に、教員や NPO 職員、フリーランスや企業の方など、環境教育の実践者やこれから取り組もうとしている人たち 11 名の参加を得て実施することができました。

【プログラムの実施内容】

ファシリテーター：村上千里（ESD-J 事務局）

13:30～ 主催者オリエンテーション

- ・今日のワークショップのねらいとすすめ方の説明

13:40～ 自己紹介

- ・①所属と名前 ②環境教育歴 ③ESD を知ったのは？ ④ESD で思うこと
- ・参加者は、環境教育歴 15 年選手 6 名、2 年未満 5 名の計 11 名

13:55～ パワーポイントを使ったプレゼンテーション（1）

- ・ESD-J と ESD の 10 年のはじまりについて
- ・持続不可能な世界の状況のデータ（環境・貧困・紛争・富の偏在など）

14:10～ グループワーク：身近な暮らしと世界の問題をつなぐ

- ・2 グループに分かれ、「食」をテーマに気になることを書きだす（模造紙の真ん中に「食」と書き、そこから連想するさまざまな課題をウェブ状に書き込んでいく）
- ・私たちの食生活と、世界の環境問題・世界の貧困・身近な人権問題などとのつながりを考える
- ・それぞれのグループでどういう話がでたかを発表しあう（フードマイル、産地の環境破壊、産地の生産者／外食／中食産業を支える労働者の労働環境・労働条件、エネルギー／ごみ問題、食の安全性、食物の来歴を見るようにするのが大切！など、多様な視点を共有できた）

14:45～ パワーポイントを使ったプレゼンテーション（2）

- ・ESD で育みたい能力、価値観など……「社会に参画する力」
- ・現在の学習を活かし、ESD に取り組むヒント

15:10～ 休憩

15:20～ 全体ディスカッション「自分の活動のなかにある ESD を語りあう」

16:10～ パワーポイントを使ったプレゼンテーション（3）

- ・事例紹介（学校の事例、地域づくりの事例など）
- ・ESD を地域で推進するしくみ＝つなぐしくみの重要性

16:15～ 全体ディスカッション「入門講座の改善点」

16:55 終了

【全体ディスカッションから（抜粋）】

(1) 参加者の活動のなかにある ESD 的アプローチについて

- ・ゼミで学んでいることを社会に伝えていくことが私の ESD だと思った
- ・大学と NGO で循環型インターンシップのしくみをつくろうとしている
- ・労働組合活動のなかで「働く」ということを考え直すことが必要だと感じた
- ・農学部と短大の栄養学科との共同学習を行っている。「食べる」と「つくる」をつなぐことが ESD につながる
- ・畑から食卓までの食育ファーム、親子で「お外で食育キッチン」などを行っている。食はあらゆる課題に結びつく

(2) ESD 入門講座のブラッシュアップ

- ・各自が ESD を自分のコトバに置き換えることが大切
- ・ESD はエッセンス？ 方法？ 考え方？ 目標？ そこがぼやけていてわかりづらい
- ・世界の課題と自分をつなぐ食のワークは有効。「えび」「ハンバーガー」など、スタートをもっと絞り込んだらわかりやすいかも

このワークショップでいただいた意見を参考に、この後、企業や大学生にむけた ESD の入門講座では、「食」のワークショップのバージョンアップに取り組みました。模造紙の真ん中には「コンビニ弁当」、あとは課題を自由にだしあうパターンと、事前に課題カードを準備し、そのつながりをグループで話しあうパターン。いずれも反応は上々でした。

ESD-J では今後、この入門講座を ESD を伝える人むけに定期的に開催し、ESD のインタープリター（通訳者）を増やしていきたいと考えています。

【参加者の感想から】

- ・「ESD」は「…する教育」と定義されているが、「○○教育」の「考え方？手法？センス？エッセンス？のなんなのか？」、自然教育や環境教育などがこれまでいってきたこととなにがちがうのか、さらに議論・整理が必要なテーマであることがわかりました。
- ・ESD の概念を整理して、伝える方法について再確認することができました。
- ・ESD についてゆっくり話しあえたのが大変よかったです。自分の取り組んでいる実践が「ESD」であったことを認識しました。環境教育という言葉がメジャーになってきたように、ESD もじっくり広まっていくのでしょうか。
- ・みなさんとディスカッションできてよかったです。
- ・気づきを促すワークショップは、楽しく参加することができました。今後、具体的な行動につなげるワークショップも必要かなと思います。
- ・ESD の話は何度か聞いてはいますが、なかなか理解しにくいところがあったので、直接聞くことで少し理解は深まりました。現在、とりくんでいるエネルギー環境学習プログラムが ESD として評価されるよう、レベルアップしていきたい。
- ・ワークショップ形式なので、いろいろな人の意見を聞くことができてよかったです。

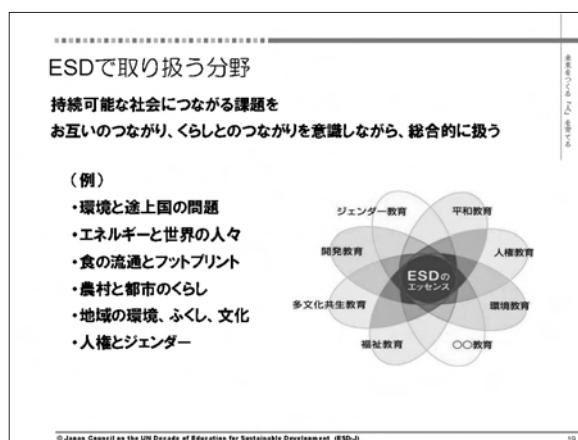
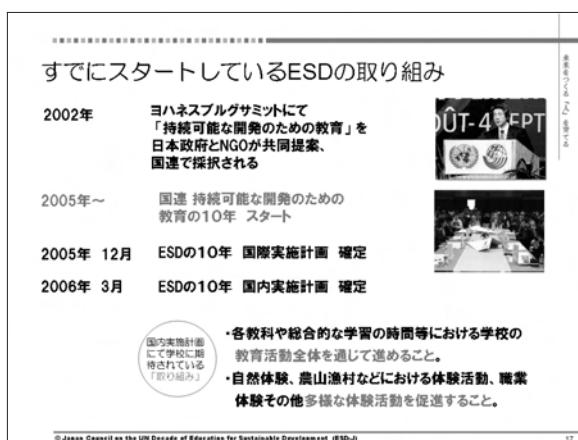
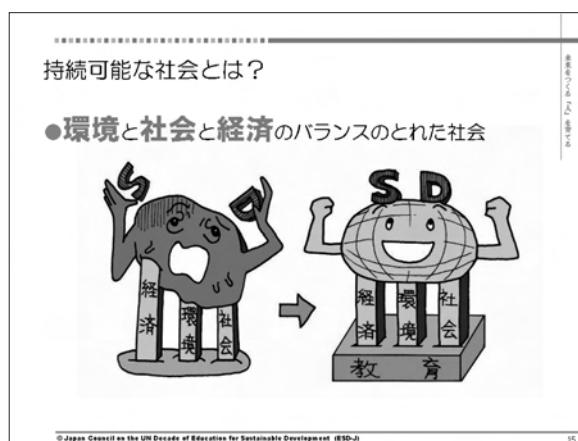
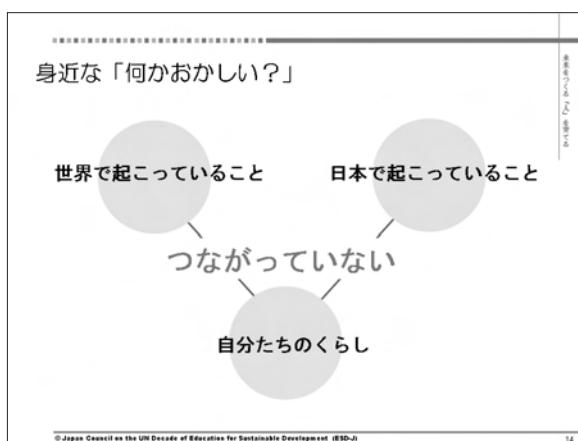
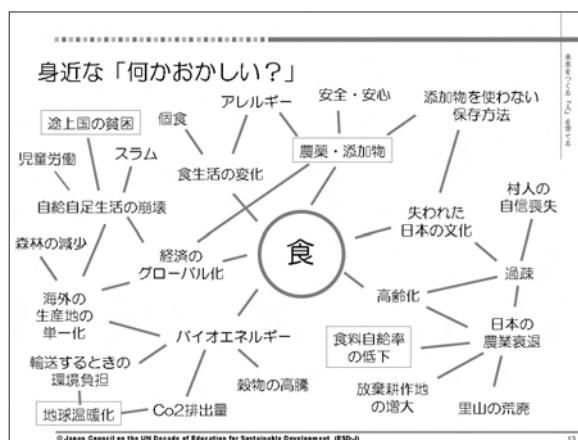
〈ESD 入門講座 解説資料〉



今、世界で起こっていること
2100年には地球の平均気温が**4度上昇**すると言われています
1日に小豆島と同じ面積の農地や牧草地が**砂漠化**しています
1日に**200種の生物**が絶滅しています
1日当たりの所得が1ドル以下という**貧困人口が10億人**います
1日**2万4千人が空腹で餓死**しています
1日に軍事費として**2500億円**が使われています
戦場で戦う子どもの兵士が**30万人**いると言われています
14秒に1人の子どもが、エイズが原因で親を失っています
学校に通えない子どもたちが**1億2千万人**います
人口比**80%**の途上国の人々が、**20%の資源**を分けています

1冊の世界（ダイヤモンド社）、「私にできることは、なんだう。（地域市民村）より」

© Japan Council on the UN Decade of Education for Sustainable Development (ESD-J)



ESDを通じて育みたい『価値観』

- 人間の尊厳はかけがえがない
- 私たちは公正な社会をつくる責任がある
- 現世代は将来世代に対する責任を持っている
- 人は自然の一部である
- 文化的な多様性を尊重する



© Japan Council on the UN Decade of Education for Sustainable Development (ESD-J)

未来をつくる人材育成

20

ESDを通じて育みたい『能力』

- 自分で感じ、考える力
- 問題の本質を見抜く力／批判する思考力
- 気持ちや考えを表現する力
- 多様な価値観をみとめ、尊重する力
- 他者と協力してものごとを進める力
- 具体的な解決方法を生み出す力
- 地域や国、地球の環境容量を理解する力



© Japan Council on the UN Decade of Education for Sustainable Development (ESD-J)

未来をつくる人材育成

21

ESDが大切にしている『学びの方法』

- 参加体験型の手法が活かされている
- 現実的課題に実践的に取り組んでいる
- 繼続的な学びのプロセスがある
- 多様な立場・世代の人と学べる
- 学習者の主体性を尊重する
- 人や地域の可能性を最大限に活かしている
- 関わる人が互いに学び合える
- ただ一つの正解をあらかじめ用意しない

© Japan Council on the UN Decade of Education for Sustainable Development (ESD-J)

未来をつくる人材育成

23

ESDの進め方のひとつの例



© Japan Council on the UN Decade of Education for Sustainable Development (ESD-J)

未来をつくる人材育成

24

現在の学習を活かし、ESDに取り組むヒント

- (1) 地域の資源を知り、活かす
 - 多様な人と一緒に行う
 - 地域の人、自然、施設、課題を知ることからはじめる
- (2) 学びのスタイルを変えてみる
 - 正解を用意せず、共に学びあう
 - 参加体験型・問題解決型の学習方法を取り入れる
 - 繼続的な取り組みとする
- (3) テーマを広げる、つなげる
 - くらし、文化、経済、環境、国際理解……
 - サステナブルな社会につながるテーマへ
 - 体験と学習をつなげる

© Japan Council on the UN Decade of Education for Sustainable Development (ESD-J)

未来をつくる人材育成

25

ESDを推進する仕組みが必要



© Japan Council on the UN Decade of Education for Sustainable Development (ESD-J)

未来をつくる人材育成

26

我が国におけるESDの10年実施計画

- ### 実施の指針
- (1) 地域づくりにつながる
 - (2) あらゆる主体が実施主体
 - (3) 多様な教育分野の総合化
 - (4) 参加体験型学習や合意形成の手法
 - (5) 育むべき力や価値観
 - (6) 多様な主体の連携・協働とコーディネート機能、プロデュース機能

© Japan Council on the UN Decade of Education for Sustainable Development (ESD-J)

未来をつくる人材育成

30

ESDを推進するしくみづくり



© Japan Council on the UN Decade of Education for Sustainable Development (ESD-J)

未来をつくる人材育成

32

学校教育における ESD の可能性を考える

～教員むけ ESD 研修を実施して～

2008年8月7～9日の3日間、茨城県教育委員会より依頼を受け「環境教育推進事業に係る教員研修」の一部として、茨城県霞ヶ浦環境科学センターにて、ESDの研修を実施しました。7日は小学校教員80名、8日は中学校教員79名、9日は高校教員36名の環境教育を担当する教員の方を対象とした研修でした。

それぞれ1時間30分という短い時間でしたが、いくつかの参加型のワークを交えながら、ESDに関する基本的理 解と学校教育におけるESDの取組み方と一緒に考えてきました。

実施内容

講師：重政子（ESD-J理事）、佐々木雅一（ESD-J事務局）

1) いま、地球で起こっていること

環境問題、貧困問題、平和問題、人権問題など、世界で起こっている多様な問題を、スライドをみながら実感し考えた。

2) ワーク1：食からつながる地球の課題

グループごとに、身近な「食」を手がかりに、身の回りの持続不可能な課題をだしあい、さらにそれらの課題の関係を考えながらマッピングする。身近な問題と日本や世界で起こっているさまざまな課題とを結び、また環境、社会、経済のそれぞれの問題が複雑に関係する、構造的な持続不可能性の気づきを促した。

3) ESDが生まれた経緯

前述の環境、社会、経済のバランスを考慮した開発の必要性と、そのような社会を実現するために「教育」というアプローチがすべての人にとって重要なこと、それらが世界的に取り組まれていることなどを理解した。

4) ESDを理解するためのポイント

より具体的にESDが扱うテーマ、育みたい価値観、育みたいスキル、大切にしている学びの方法、具体的なストーリー設計などについて解説しながら、ESDの基本的な理解とめざしている人材のビジョンを共有した。

5) 現在の授業にESDを活かすための3つのアプローチ方法

1) 地域の資源を知り・活かす、2) 学びのスタイルを変える、3) テーマをつなげる、広げる という3つのアプローチについて具体的な方法を紹介する。

6) ワーク2：参加者がもっているESDへのアプローチを共有する

ESDへのアプローチ1～3について、参加者がこれまで取り組んできた取組みをグループごとに共有する。

7) 学校におけるESDの事例（気仙沼市、西宮市）

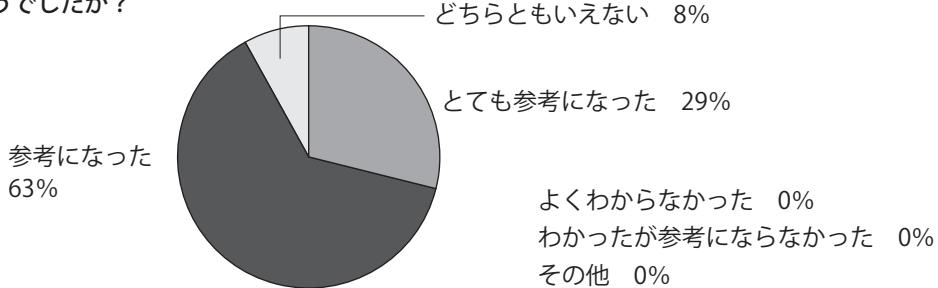
学校で取り組まれているESDの事例を2件紹介し、具体的な取組みイメージを確認する。

8) まとめ

当日参加された教員の方で、ESDについて知っているという方はとても少数でした。しかし、研修を通じて、教員という立場で、どのように持続可能な社会づくりにむきあっていくのか？ また具体的に学校教育のなかでESDを活かしていくということはどのような意味をもつのか？ といったことには、多くの参加者から、前向きな意見が多数得られ、それが研修の一つの成果だと感じます。もちろんさまざまな制約があるなかで、ESDに取り組んでいくことの困難もあると思いますが、学校教育にかかる方とじっくりと話しあいながら、できる一歩を考える場を、より多くもつことの大切さを実感しました。

参考までに、当日参加された教員の方の感想やコメントを紹介します（2日目の中学校教員アンケートより）。

◆研修を受けた印象はどうでしたか？



◆一番印象に残ったことは何ですか？

- ・ 学校、世界、日本、地域が身近に感じることができた
- ・ 今、地球で起こっている現実
- ・ 身近な生活のなかに学びあいの材料はたくさん含まれているということ
- ・ 持続可能な社会づくりのためには、地域の活動、地域のよさを学ぶということ
- ・ ESD という言葉をはじめて聴いたが、意外と身近なテーマで広い世界につなげていけるということ
- ・ “正解はない”のことば、生徒とともに、自分なりに考えることが大切ということを感じた
- ・ 「世界で起こっていること」と「身近で起こっていること」をつなげなくてはいけないと感じた
- ・ 体験学習でも、ただやればいいのではなく、将来性や継続性を考えていくことが大切だということを改めて感じました
- ・ 環境教育は環境だけではなく、経済にも社会にも深く関連があるということ

◆よく理解できなかったこと、腑に落ちなかったことはなんですか？

- ・ このようなすばらしい取組みがあまり人に知られずにいること
- ・ さまざまな教科と関連づけないと、理科担当だけの取組みになりがち
- ・ 際限なくいろいろなものとの関連があるなかで、学校の授業としてなにを重視していくべきか

◆今後の学習活動に活かせると感じたことはなんですか？

- ・ 今後、総合の時間の計画を練り直すさいに、今日の考え方を活かしていくぞうだと感じた
- ・ 地域とのかかわり方の工夫、子どもたちへの興味のもたせ方
- ・ ぜひ、総合の時間に活用していきたい
- ・ 体験したワークは、教科や総合の導入に活用できると思いました
- ・ 学習のなかで単発に終わってしまいがちな体験学習も、ESD の考え方をとり入れて考えるだけで、変わっていけるといいなと思う
- ・ いままでも環境教育については授業でやってきたが、さまざまな角度から ESD に取り組みたい

アンケートからわかるように、ESD の研修で印象に残った箇所は、参加者によってかなりバラエティに富んでいます。これは、ESD が包括する要素が非常に多岐にわたっている一方で、それを受け止め、活かしていく可能性の幅もとても広いということでしょう。そして、多くの方の意見として、総合的な学習の時間や地域とのかかわり方において、ESD の考え方を学校教育の現場に活かす余地が多くあることがあげられました。

まだまだ、課題もたくさんありますが、学校教育に限らず、今後もさまざまなセクターの方と ESD へのアプローチと一緒に考えていきながら、ESD の視点を広めていきたいと思います。

企業むけ ESD セミナーの開催

2007年9月27日、日本経団連自然保護協議会の依頼を受け、ESD-Jの企画・コーディネートによる企業むけESDセミナーを開催しました。約40社、60名以上の企業のCSR、社会貢献、環境、総務、法務などの担当の方に出席いただき、企業におけるESDの取組み方についてセミナーおよびパネルディスカッションを行いました。

【進行内容】

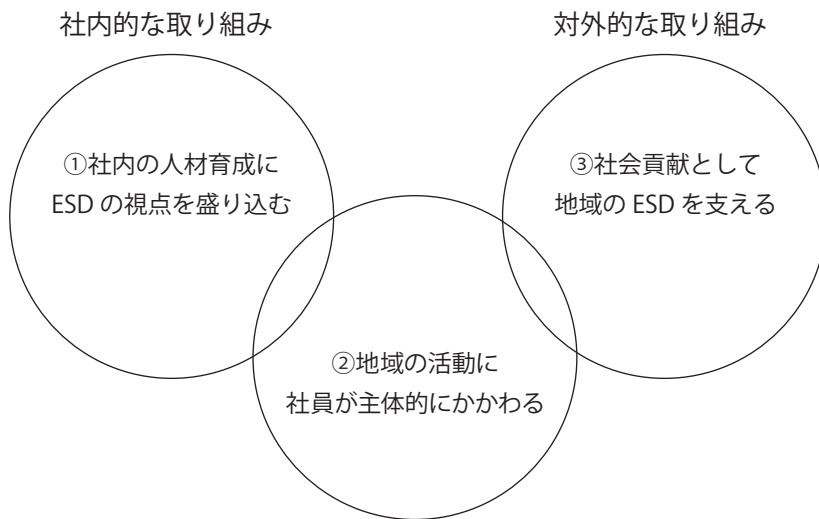
- 1) 主催者あいさつ
- 2) オープニング映像 「セヴァンスズキ 伝説のスピーチ」 放映
- 3) 講演～持続可能な未来をつくる人づくり～ESDの挑戦～ 阿部 治 (ESD-J 代表理事)
- 4) 持続可能な開発のための教育とは？ 佐々木 雅一 (ESD-J 事務局)
- 5) パネルディスカッション ESDから考える企業の取組み
- 6) 質疑応答

【企業とESDの接点】

当日は、「セヴァンスズキ 伝説のスピーチ」の放映に続き、代表の阿部より「ESDの10年」が採択された経緯やESDに意義についての講演をしました。その後、事務局の佐々木より持続可能な社会（環境と社会と経済のバランスをとる）を創るために、「教育」がもつ意味、ESDが大切にしている価値観や方法、そして企業に求められること、企業内でESDを活かしていく3つのアプローチについて提案をしました。

経済活動を担う企業の職員一人ひとりがサステイナブルな価値観や問題解決型の思考を有し、自らの経済活動を社会的な視点で見直すことは非常に重要であると考えます。

そして、具体的に企業として取り組むためのアプローチとして、以下の3つを提案しました。



企業の内外で3とおりの「ESDへのアプローチ」

①社内の人材育成に ESD の視点を盛り込む

企業における ESD とは、たんに、環境や開発に関する知識を学ぶのではなく、問題解決型の思考力を高め、企業と社会のかかわり方を継続的に考えあう参加型の人材育成。

そのために、さまざまな社員教育プログラムに、社会的な課題やニーズの認識、自社企業活動の意味、企業の存在価値、社会と企業の関係を考える時間を盛り込み、主体的に学びあうことが大切である。

②地域の活動に社員が主体的にかかわる

社員が主体的に地域にかかわることで、社会や地域の課題を実感できる。解決の方法を一緒に考える。地域の多様な立場の人とのコミュニケーションの機会を得る。企業の存在意義を考える。かかわった社員にとって多様な学びが生まれる。

③社会貢献として地域の ESD を支える

地域にすでに存在している、多様な学びの場。しかし、それらの多くは、地域の NPO などが限られた人材や資金でやっと支えています。このような持続可能な社会のための学びを、持続させるための支援が強く求められている。企業として、人、モノ、金、ノウハウ、情報、ネットワークなど提供できるものは多くある。それらの資源をいかに地域に活かすかを考えることが必要である。

【事例紹介とパネルディスカッション】

ESD 的な学びの場の事例として、企業より 2 件、NGO より 1 件の事例紹介をしていただきました。

〈企業の事例〉

■ NPO との協働で若者を育てる「損保ジャパン CSO ラーニング制度」

(財) 損保ジャパン環境財団 事務局長 富沢泰夫氏

■ NPO 支援と社員ボランティア活動をともに育むしくみ「端数俱楽部」

富士ゼロックス（株）CSR 部社会貢献推進室 宮本育昌氏

〈NGO の事例〉

■平成の若者が日本をおもしろくする地球時代のヒント「緑のふるさと協力隊」

NPO 法人 地球緑化センター 事務局長 新田均氏

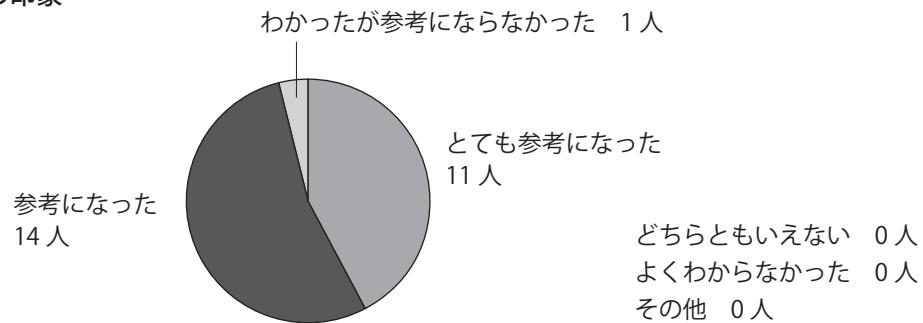
続いて、阿部がコーディネーターをつとめ、発表をいただいた 3 名の方とパネルディスカッションを行いました。そのなかでは、さまざまな事例を通じて、「教育」のもつ意味や持続可能な社会づくりに企業が果たす役割、社員の意識改革が企業にもたらすメリットなど有意義な議論がなされました。

とくに、企業の社会貢献活動を実施していくうえで、より多くの社員がかかわる必要性が述べられる一方で、社員のやる気や充実感を高め、働くことの意義を感じさせるためにも、社員がそのような活動にかかわりながら、学ぶことは非常に効果的であり、これからの中にはとても重要であるという議論がとても印象的でした。

参加いただいた方からもアンケートを通じてさまざまな意見をいただきました。なかでも、人づくりへの重要性への共感が多かったようです。しかし、今回は ESD と企業との接点という意味では、入り口に立ったばかりです。今後、どのようにして企業のなかで ESD を意識され、さらに具体的にどのような取組みへとすすめられるか、ESD-J としても積極的に提案していきたいと思います。

<ESD セミナー アンケート集計結果 >

(1) セミナーの印象



(2) その理由

◇とても参考になった◇

- ・ ESD の考え方を理解することができた。また ESD をめぐる社会状勢の情報が得られた具体的な実践例を聞くことができた。
- ・ 持続可能な社会づくり、ひいては人づくりは社会全体の課題だと強く認識できた。
- ・ 「社内の人材育成について」環境部門とそれ以外の部門で温度差があり、どのように全社的な取組みとして広げていくかのヒントが得られた。

◇参考になった◇

- ・ 社員・企業と ESD のかかわりについて、具体事例を聞かせていただいたので。
- ・ 環境への取組みだけでなく、持続可能な社会の構築という大きな概念のなかにそれを位置づけなければいけないと再認識いたしました。
- ・ 事例が多方面だったので、ESD の広がりを感じた。
- ・ CSR のベースに ESD

◇内容はわかったが、参考になるものではなかった◇

- ・ 具体的な成果や課題がみえません。

(3) 一番印象に残ったこと

- ・ 「伝説のスピーチ」12才の少女の心からのメッセージに心うたれた。
- ・ 地域に着目した ESD の考え方
- ・ 教育の重要性を深く感じました。まず、人の意識づけをする必要があること、さらにそれを活動・行動に結びつける教育と、段階的で継続的な教育が必要となってくると考えました。
- ・ 地球緑化センターにおける取組み
- ・ 富士ゼロックス様の端数俱楽部の取組みは、社員が環境問題について再認識する場として非常に有効であると感じました。
- ・ 損保ジャパン CSO ラーニング制度で、企業が（企業の）外部人材を起用し（企業の）外部団体に派遣するという思いがけない取組み。
- ・ ESD = CSR、双方向で企業も人もつよくなる。

- ・ ESD の取組み全般
- ・ すべての事象のつながり。つながりの意識と意思をもった教育が持続性を生む。すべては人づくりからはじまる

(4) よく理解できなかつたこと、腑に落ちなかつたこと

- ・ 実際に企業内に ESD の考え方を浸透させるための具体的な行動。非常に対象が広いので、理解しきれないところもあった
- ・ 社内で広く参加を呼びかける工夫のヒントがほしかった（でも、永遠の課題かも）。
- ・ CSR 同様、「今までとなにがちがうんだ？」という社内の疑問に対し、わかりやすい回答がほしい（今までってきた活動すべてが ESD でくくられてしまうため）。
- ・ 「損保ジャパン」が学生の「人」づくりを行うことと企業の利益の関係、たんに社会的評価の向上、CSR だけなのか？
- ・ ESD-J はどんな具体的なプログラムをもって実行してきたかが不明（3 事例は具体的であり、参考になるところが多かったです）。

(5) 今後の活動に活かせると感じたこと

- ・ 企業として本音で SD を希求しないと本物の活動にならないわけで、Top ESD の重要さ改めて認識しました。
- ・ ESD と取組みに対し、とてもかたく考えていたが、多様な取組みとして考えられるのでは？ と感じ、今後、社会貢献活動のなかで ESD 的取組みということで推進できないか検討したいと思う。
- ・ 協力をぜひお願いしたい。
- ・ 自社の社会貢献活動のあり方について、アイデアをいただいた。社員教育について、ESD の考え方を取り入れていきたい。

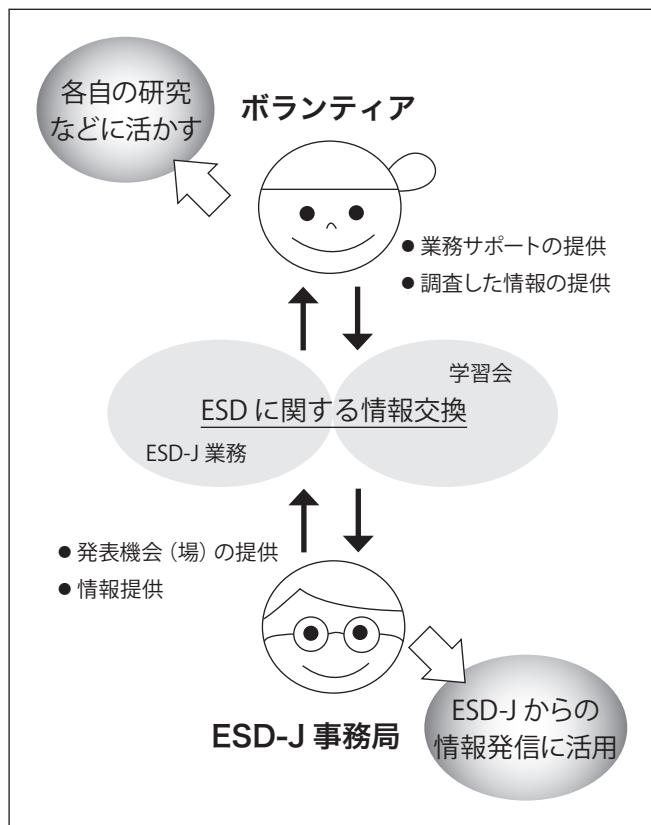


ESD 学習会報告

ボランティアと ESD-J 双方の学び

2007 年度より、学生を中心としたボランティアグループを発足しました。事務局の業務補佐をしてもらう一方、ESD についての情報収集やネットワークづくりに役立ててもらうことを目的としました。ウェブサイトや ESD-J メーリングリスト、理事や会員が関係する大学で募集し、現在、学生を中心とした 21 名が、ボランティアとして登録をしています。

そして、このボランティアグループ発足と同時に、ボランティア学習会を開始しました。業務を中心とした活動とともに、学習会をすすめてきた理由として、たんに「力を提供する=してもらう」という関係だけでなく、双方の学びにつながるような有機的な関係をつくっていくことを重要視したからです。これまで、ボランティアとともに、4 回の学習会を開催しました。



ESD-J ボランティア学習会のイメージ

第 1 回学習会 ESD 入門

日時：10月5日 10:00~12:00

場所：環境パートナーシップオフィス エポ庵

ファシリテーター：野口扶弥子（ESD-J 事務局）

ESD とはなにか、国連持続可能な開発のための教育の 10 年までの流れ、ESD-J の活動を中心とした国内およびアジアにおける ESD の取組みについてのミニセミナーを実施。参加者は、教育、心理、電気工学、環境情報などさまざまな分野の学生が参加。ESD に関するさまざまな情報媒体をつかった説明の後、各参加者が、自分の言葉で ESD を定義してみました。セミナー後は、ESD レポートの発送作業のボランティア作業をしていただきました。

第 2 回学習会 初等教育における [ESD × 国際理解教育] 東京都江東区立東雲小学校 公開授業参加報告

日時：11月9日（金）10:00~12:00

場所：環境パートナーシップオフィス 会議室

発表者：山本英未（玉川大学 4 年）

第 1 回目の参加者に協力いただき、東京都江東区立東雲小学校（☞ 174 ページ）の公開授業の参加報告をしました。東雲小学校は、ユネスコ・スクールでもあり、国際理解教育を中心に全学年をとおして、ESD を全教科にとり入れています。消費者と世界のつながりを学ぶ授業や、助産師さんを招いた「いのちの授業」など、実際の授業のようすなどを、写真を交えながらお話を伺いました。また、山本さんは、研究で訪問した、大阪府豊中市立上野小学校の ESD の取組みについても報告しました。

二つの小学校の取組みをみて、先生たちが、どうしてこうした授業を組み立てていけたのか、そのモチベーションはなんなのか、こうした授業をしていて、どれくらいの負荷が先生たちにかかっているのか、こうした授業をつくっていくことは、先生たちにとってどういう意味・意義・学びがあるのか、ということにも関心を高めました。

第3回学習会 ①東京都江東区立東雲小学校ヒアリング報告
 ②日本とネパールを結ぶ [国際理解教育] × [環境教育]

日時：12月3日（月）13:30～15:30

場所：環境パートナーシップオフィス会議室

発表者：前半：山本茉未（玉川大学4年）、根本聖子（聖心女子大学4年）

後半：マニタ・シュレスター（武蔵工業大学3年）

学習会前半は、第2回学習会を発展から発展させた関心をもとに、山本さん、根本さんがヒアリングした報告でした。二人は、東雲小学校校長手島利夫さんおよびESD導入当初の同校元教諭石田さんにインタビューをしました。ESD導入当時、国際理解教育や環境教育よりも学力向上が大事なのではないか、という反対の声もあったことなどを紹介。子どもたちがイキイキとしている姿、「自分で追求して学びたい」という気持ちを芽生えさせているようすをみることで、ESDが他の先生たちにも受け入れられていったそうです。

後半は、マニタさんと大学教員が実施している、「ネパールプロジェクト」の報告でした。このプロジェクトでは、日本とネパールの大学生が、国際理解教育と環境教育の視点を取り入れられた国際交流をしています。活動経験を踏まえ、マニタさんは、「お金だけをだすような援助であるのなら、最初からなにもしないでなければ、現地の人びとが知恵をだしあって自分たちの力でなんとかする。お金が前提となった支援は持続可能ではない」と語っていました。

第4回学習会 エコプロダクツ展から考える、持続可能な社会と「企業の取組み」

日時：2008年1月15日（火）10:00～12:00

場所：環境パートナーシップオフィス会議室

ファシリテーター：佐々木雅一、野口扶弥子（ともにESD-J事務局）

ESD-Jも出展した「エコプロダクツ展」（2007年12月開催）やエコ商品を題材に、持続可能な社会づくりにおける企業活動についての意見交換をするワークショップスタイルの学習会を実施しました。ボランティアグループメンバーのほか、企業のCSR担当者、学生、NGOなど多様な立場からの参加がありました。学習会では、まず、学生と社会人の2～3人のグループで、エコプロダクツ展について「よかったと感じたこと」、「物足りないと感じたこと」、「疑問に思ったこと」について意見交換をしました。だされた意見のうち、「なぜ、エコプロダクツ展が学びの場になつていないのか」「なぜ、企業の取組みのさまざまな面がみえないのか」という点を深める議論をしました。

企業のCSRや環境への取組みにおける企業のジレンマや、ジレンマ克服にむけ市民・企業・社会全体でなにがなされるとよいか、さらにエコプロダクツ展のあるべき姿について議論が発展しました。学習会の終わりには、「市民と企業の対話の場」「経営者・企業全体の意識改革」「市民の企業をみる目」「企業・市民双方向のコミュニケーション力のアップ」、「負の情報の開示」などの意見がでました。

ボランティア活動および学習会の今後について

ボランティア登録は、随時受付しています。活動が、事務局のある東京に集中してしまうことが多いのですが、関東以外でも、翻訳ボランティア、地域の理事のサポートなど多様な形でかかわっていただける可能性は大きいにあります。関心のある方は、事務局までご連絡ください。

今後は、ボランティア学習会と国際プロジェクトチームのなかですすめてきた、国際ネットワークカフェ（N' Café）の取組みとを統合する予定です。カフェのスタイルを継承しながら、会員・一般の方が気軽に、広範なESDのテーマの情報交換・意見交換をする場づくりを計画中です。そして、これまでのボランティア学習会のスタイルをとり入れ、学生ボランティアと事務局がともに企画・運営にあたる予定です。

2007 年度 講師派遣リスト

行政や市民グループからのご相談を受け、教員むけ研修、市民むけ研修、行政職員むけ研修、大学生むけ講義などを企画したり、講師派遣などを行いました。改めてタイトルを眺めると、事業枠組みの約7割が環境教育であり、「これから環境教育のあり方を探る」という位置づけでの研修が多いことがわかります。ただ依頼主は文部科学省や教育委員会、行政ではまちづくりや市民活動推進など、市民組織もボランティア推進や開発教育・国際協力分野などに広がっており、今後、総合的な学習の時間、開発教育、市民参加やまちづくりなどの文脈での広がりをつくっていければと思います。

イベント名	主催	開催日	開催地
-------	----	-----	-----

■教員対象の研修

環境教育推進事業（3回）	茨城県教育委員	8月7・8・9日	茨城県土浦市
環境教育指導者養成研修講座（2カ所）	文部科学省	10月9日 10月23日	福島県猪苗代町 岡山県吉備中央町

■行政職員対象の研修

環境教育研修	環境省環境調査研修所	11月7日	埼玉県所沢市
--------	------------	-------	--------

■企業対象の研修

日能研職員むけ ESD 講座	日能研	9月3日・14日	神奈川県横浜市
NTT グループ CSR 担当者 ESD ワークショップ	日本電信電話株式会社	2月5日	東京都千代田区

■市民対象の講座・研修

第二期環境教育研究会	中野・環境市民の会	8月29日	東京都中野区
COCO サロン	北九州 JVCA	8月31日	福岡県北九州市
KFAW カレッジ	(財)アジア女性交流・研究フォーラム	9月1日	福岡県北九州市
コミュニケーション力基礎講座	葛飾区市民活動支援センター	9月9日	東京都葛飾区
環境教育リーダー研修（基礎講座）	環境省東北地方環境事務所	10月17日	福島県安達郡
環境カウンセラー研修（2回）	環境省関東地方環境事務所	10月31日 ・11月1日	東京都渋谷区
環境教育・清里ミーティング	(社)日本環境教育フォーラム	11月17-19日	山梨県北杜市
ねりまエコアドバイザー／こどもエコクラブ サポートー合同研修会	練馬区環境まちづくり事業本部	3月12日	東京都練馬区

■大学での講座

森林文化講演会	岐阜森林文化アカデミー	10月11日	岐阜県美濃市
「持続可能な社会」講義	宮城教育大学	12月4日	宮城県仙台市

■企業対象の講演

持続可能な開発のための教育（ESD）セミナー	日本経済団体連合会 自然保護協議会	9月27日	東京都千代田区
------------------------	----------------------	-------	---------

■イベント等での講演

日本環境教育学会島根大会、ESD 分科会	日本環境教育学会	5月26日	鳥取県松江市
環境講演会 - 未来を創る教育 -	川口市環境総務課	6月10日	埼玉県川口市
ネイチャーゲーム 20周年記念シンポジウム	(社)日本ネイチャーゲーム協会	9月14日	東京都渋谷区
園庭からはじめるドイツ ESD の取り組み	東京家政大学	10月23日	東京都板橋区
エコプロダクツ展環境教育シンポジウム	日経 BP 社	12月14日	東京都江東区
ESD 担い手ミーティング in 北海道	NPO 法人さっぽろ自由学校「遊」ほか	2月9-10日	北海道札幌市